

# 福祉座談会

# 見守り・支え合い活動の第一歩

## ざっばらんに話ができる場を作ろう

### 八本松南45自治会

# まずはゲームで助け合いを実体験

12月18日（土） 八本松南4・5自治会（会長 上野崇将）は、八本松南集会所に市健康福祉部地域包括ケア推進課と市社会福祉協議会地域福祉課の担当者を招き、当自治会域で「コミュニケーションゲーム＆座談会」を開いた。



この地域の福祉について意見を出し合う参加者（左端：上野自治会長）

この座談会は、ご近所同士のつながりで見守り・支え合える地域を目指すため、そのきっかけづくりにと開かれたもの。最初に地域包括ケア推進課の井上由紀さんは、「見守り・支え合いづくりは市が進めている『ふるさとマルごと東広島』福祉運動のなかで中核となるもの。みなさんと一緒に考えてゆきましょう」と地域における日常生活支援づくりの重要性を述べた。

また、「助け合い体験ゲーム」では、参加者が5〜6人のグループに分かれ、日常生活の困りごとを記載したカードを用い、一人ずつ身近な困りごとを挙げ、支援できる人とのマッチングを体験するゲーム。実際にやってみると誰も支援できない困りごとや、一人の方に支援が集中する等の弊害も実体験でき、支え合い活動にはいろんなジャンルの方の参加が望まれることがわかった。助け合い体験ゲームを指導した市社会福祉協議会の中東亮さんは、「ゲームのように困りごとがマッチングできる環境が必要。そのため、地域に話し合いの場が設けられ、話し合いを通し支援者とのつながりが持てるようになればいい」



カードで助け合いのマッチングを体験する参加者

と見守り・支え合い活動の第一歩について述べた。座談会で、参加者からは「何でも話せる場がほしい」、「顔見知りになる場がほしい」、「憩いの場・カフェがあればいい」等多くの意見が出され、上野自治会長は、「今後、定期的なこうした話し合いのできる会合を持ち具体化しましょう」とまとめた。

また、アンケート結果でも、「いろんな立場の意見が出て良かった」、「前向きな話につながって良かった」と多くの参加者がこうした会合に賛同されていた。

今回は、青少年育成部会員など16人に加え3人の子ども達も参加。青パト等4台に分乗することも徒歩でも、午後6時から小学校区内の大型商店や公園、併設のトイレ等を中心に5班に分かれ、パトロールを実施した。



夜の見回り参加者

12月25日（土）青少年育成部会（部長 中森幸恵）は、小学校の冬休み期間に合わせ、今年度2回目の『夜の見回り活動』を実施した。

## 夜の見回り 子ども達の安全安心活動

青少年育成部会



元気に見回る参加者

この日は、外気温が急に低下したためか外出者も少ない状態で、不審者や一人で出歩く子どもは認められなかった。中森部会長は、「厳しい寒さの中見回りありがとうございました」と謝辞を述べ、パトロールを終了した。

また、おやじの会（会長 細工正）も、26日参加者7名、青パト2台によるパトロールを実施。異常は認められなかった。